

the external appearances, but different in the nature of the internal structures of the roots.

To clarify the origin of them, we studied the comparative anatomy of the roots of *Cirsium* plants growing generally in Taiwan, viz. *C. albescens* Kitamura, *C. arisanense* Kitamura, *C. suzukii* Kitamura, *C. japonicum* DC. var. *australe* Kitamura and *C. japonicum* DC. var. *takaoense* Kitamura.

The results proved that the origin of Tai-siau-ke on the Chiai (嘉義) market from Penghu (澎湖) pref. was *C. albescens*, and that on the Taipei (台北) market from Chiai pref. was *C. japonicum* var. *takaoense* and from Taipei pref. was a mixture of *C. suzukii* and *C. japonicum* var. *australe*.

The diagnostic anatomical characters of Tai-siau-ke and the roots of related *Cirsium* plants are shown as Table 1.

### ○小笠原群島の新帰化植物 (小林純子) Sumiko KOBAYASHI: On newly naturalized weeds in the Bonin Islands.

著者は1970年11月, 1971年3~4月, 1972年3月の3回, 小笠原群島の主として父島, 母島で東京都立大学小笠原生物調査団の一員として顕花植物の調査に従事した。採集し得た草本種子植物中, 本群島に未記録の6種を以下に列挙する。

1. *Gomphrena celosioides* Mart. (センニチノゲイトウ, 新和名)——父島: 宮の浜海岸, Nov. 14, '70; 三ヶ月山, Apr. 6, '71; 夜明山, Mar. 6, '72; 大村路傍及び広場の芝生, May 8, '73. [分布: 南米熱帯原産。熱帯及び南部アフリカ, オーストラリア, インド, マレー半島, ジャワ, フィリピン, など]。

2. *Cassia Leschenaultiana* DC. (タイワンカワラケツメイ)——父島: 小曲路傍, Nov. 15, '70; 須崎海岸, Mar. 4, '72. [分布: 西南アジア原産。インド, 南支, 琉球。図説: 渡辺, 図説熱帯植物集成, p. 250; 中国高等植物図鑑, 2: p. 342.]

3. *Merremia hederacea* Hall. f. (ツタノハヒルガオ)——母島: コウモリ谷, Nov. 17, '70 [分布: 熱帯アフリカ, オーストラリア, 熱帯アジア, マレーシア, 南支, 琉球]。久内清孝先生はすでに本誌 23: 59 (1949) に本種の東京における一時的出現を記録しておられる。

4. *Galium spurium* L. var. *echinospermon* (Wallr.) Hayek (ヤエムグラ)——父島: 小曲~ツツジ山登山道の路傍, Apr. 1, '71 [分布: 日本 (琉球を含む), サハリン, 朝鮮, 支那, ヨーロッパ, アフリカ]。

5. *Aster subulatus* Michx. (ホウキギク)——父島: 宮の浜海岸, Nov. 14, '70, <sup>ナコウド</sup> 媒島: Oct. 18, '73 [分布: 北米原産。日本 (琉球を含む)]。本種は明治の終り頃大阪市内に出現したことが久内先生の“帰化植物” p. 210 に報告されている。

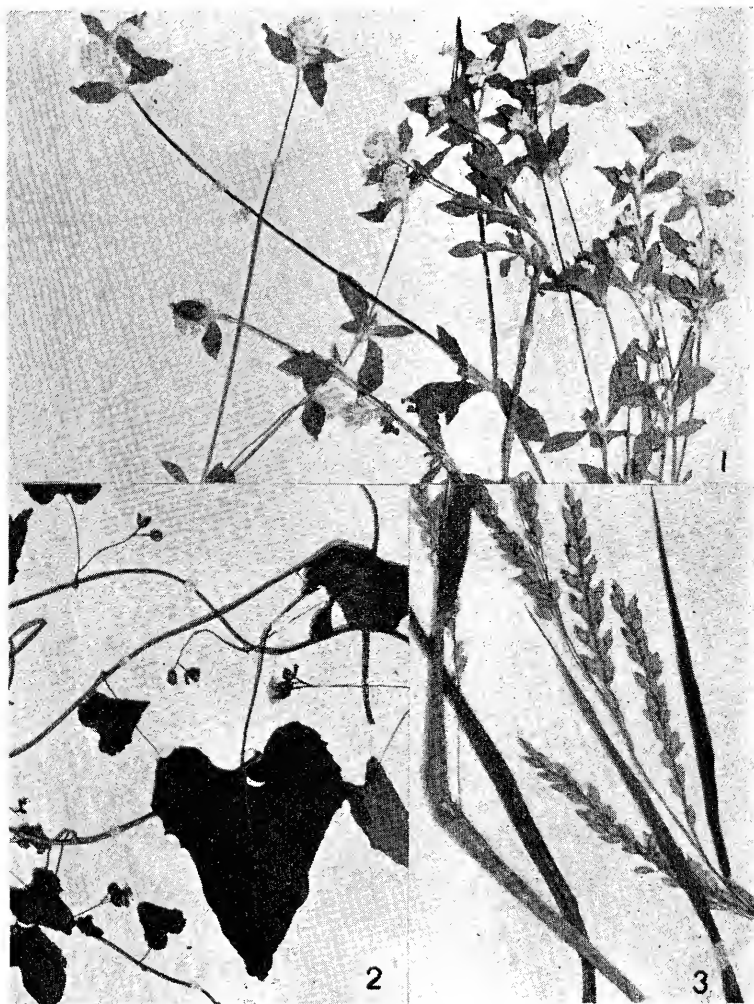


Fig. 1. 1. *Gomphrena celosioides* Mart. 2. *Merremia hederacea* Hall. f. 3. *Eriochloa procera* Hubbard.

6. *Eriochloa procera* (Retz.) C.E. Hubb. (ムラサキノキビ)——父島：大村～三ヶ月山路傍，Nov. 9, '70，大村，Mar. 4, '72〔分布：アフリカ，北米，西印度，熱帯アジア，南支，琉球〕。

以上 6 種の同定は主として大井次三郎及び初島住彦両博士, *Flora Malesiana*, C. A. Backer: *Flora of Java* などの著書及び論文によった。ただし最後の種は直接に大井博士の同定を仰いだ。

センニチノゲイトウが南米熱帯を原産地とし、東南アジア一帯に広く分布しているにもかかわらず、南支（台湾）、琉球には未記録であり、今回小笠原群島で発見されたのは興味あることである。以下に本種に関する著者自身の記載を附しておく。

一年生草本。全株に上向きのあらい長白毛があり、茎は直立して基部より分岐し、高さ 10~30 cm。葉は対生で、短柄またはやや無柄、長橢円形、刺状鋭尖頭。基部は狭まり、全縁で、長さ 1.5-3.5×0.5-1.2 cm。表裏に長白毛をやや密生する。花時に枝は長く伸長して花茎状をなし、その先に 1 個ずつ球状の頭花をつけ、その直下に無柄の 1 対の葉を伴う。頭花は球形で多数の小花からなり、径約 1 cm。徐々に伸長して長さ 2.0~2.5 cm 程の穂状となる。小花は淡黄白色で、2 個の小苞に包まれる。小苞は長卵形、白色膜質で鋭頭、長さ 5~6 mm。背部上半に雞冠状で、上部に僅か歯牙のある翼を有する。花床は長白柔毛でおおわれる。苞葉は卵形で、膜質鋭尖頭、長さ 3~4 mm。花被は小苞よりやや小形で 4.5~5.5 mm。花被片は披針状鋭頭、膜質で背面の中肋両側に淡緑色を呈する部分があり、背面基部に花被片の、1/2 長さの長白軟毛をかぶる。おしべは 5 個、花被よりやや短かく、花糸は合着して筒状となる。花柱は筒状の花糸より低く、長さ 0.7~1.0 mm。種子は胞果 (utricle) 内に 1 個あり、褐色、卵形で、長さ約 1.5 mm。やや扁平である。

以上あげた 6 種はすべて東京都立大学牧野標本館 (MAK) に収蔵し、その一部を東大および京大に寄贈した。

本稿をまとめるに当って、細部にわたって注意を与えられたお茶の水女子大学の津山尚教授、大井次三郎博士、都立大学的小野幹雄博士、靱山泰一の諸氏に厚く御礼申し上げます。

(東京都立大学理学部牧野標本館)

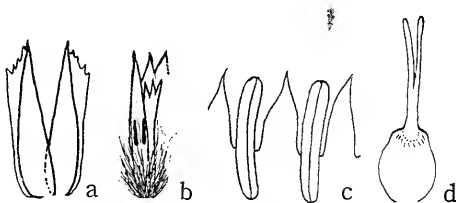


Fig. 2. *Gomphrena celosioides* Mart. a. Two bracteoles with the cristate keel at their backs. b. A floret with the basal hair. Three of the perianth lobe are shown. One of them is seen from the dorsal side with a couple of light green spots below. In the centre, there is the staminal tube in which the pistil is hidden. c. A part of staminal tube seen from inside. d. A pistil with two stylar arms.